

3月1日(月曜日)
ドル/円

米2月ISM製造業に注目

2月26日(金)の主な推移

ダウ平均株価

10325.26ドル
(+4.23ドル)

米長期金利 (10年債利回り)

3.6173%
(-0.0151%)

NY原油先物

79.66ドル
(+1.49ドル)

チャート: 30分足 26日(金)朝7時 ~ 27日(土)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所: 外為どっとコム

- ① 月末要因により仲値に向けたドル買いが出たことにより、ドル/円は一時89.49円まで上昇した。しかしその後は材料難の展開からドル/円は89円前半での小動きとなった。
- ② 22時30分に発表された米第4四半期GDP・改定値が実質年率+5.9%となり、市場予想の+5.7%を上回ったものの、同時刻に発表された米第4四半期個人消費・改定値が+1.7%と市場予想の+2.0%を下回ったことが市場では意識され、ドル/円は緩やかに下落した。
- ③ 24時に発表された米1月中古住宅販売件数は505万件と、市場予想の550万件を大きく下回ったことでドル/円が下落。ドル/円は発表前の89円前半から、日本時間27日午前2時過ぎには一時88.74円まで下落した。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 88.50-89.70円

本日NY時間には米2月ISM製造業景況指数の発表が予定されている。5日金曜には米2月雇用統計が控えていることもあり、構成要素の中でも雇用のインデックスに注目が集まりそうである。2月に入り米経済指標は雇用を初め住宅や消費などが1月数値を下回る結果が続いている。仮に前回発表数値を上回った場合、市場はドル買いで反応することが予想される。

そのほかギリシャ問題について、2月28日付英フィナンシャル・タイムズ(FT)紙からはギリシャ政府が早ければ1日にも新たな財政緊縮策を発表する、との報道が出ている。26日のNY時間は独政府による復興金融公庫(KfW)を通じたギリシャ支援の噂がユーロ/ドル相場を支え、投資家のリスクに対し積極的となる姿勢にも影響を与え、クロス円が底堅い動きとなった。引き続き相場の注目材料として注意が必要であろう。

本日及び翌朝の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
3/1(月)	22:30		(米) 1月個人所得 [前月比]	+0.4%	+0.4%
	22:30		(米) 1月個人支出 [前月比]	+0.2%	+0.4%
	24:00	◎	(米) 2月ISM製造業景況指数	58.4	58.0
	29:30		(米) ボルカ―経済再生諮問会議議長講演	—	—
3/2(火)	08:30		(日) 1月失業率	5.1%	5.2%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com